

■平成18年度 催物案内

損保ジャパン東郷青児美術館大賞と池口史子展

会期：4月7日（金曜）から5月7日（日曜）まで

日本の現代絵画のジャンルで、「損保ジャパン東郷青児美術館大賞」は優秀な洋画家に授与されてきました。平成16年の受賞者、池口史子は、広い大地の光景や、異国の町並みを描いた風景画と、花などの静物画や、都会的な女性像によって独自の世界を展開しています。本展では、過去の大賞受賞者と池口史子の絵画の世界を紹介します。

第60回岐阜県美術展

一般部：5月27日（土曜）から6月4日（日曜）

青年部：6月8日（木曜）から6月11日（日曜）

少年部：6月15日（木曜）から6月18日（日曜）

一般部は、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真、グラフィックデザインの7部門からなる公募展。

青年部は、絵画、デザイン、彫刻、書道、写真の5部門からなる公募展。

少年部は、絵画・デザイン、書写の2部門からなる公募展。

愛知・三重・岐阜三県立美術館協同企画 No.2 ルドンとその時代展

会期：7月8日（土曜）から8月20日（日曜）

愛知県美術館、三重県立美術館、岐阜県美術館の所蔵品で構成する企画展第2弾。今回は、岐阜県美術館のルドン・コレクションを中心に、ルドン（1840-1916）の時代の西洋絵画の歴史をたどります。愛知県美術館のクリムト、三重県立美術館のモネ、ルノワールなど、フランス、ドイツ、オーストリアの近代西洋絵画、素描、版画、約200点が一堂に。

生誕120年 前田青邨展

会期：9月5日（火曜）から10月9日（月・祝日）

日本画の巨匠・前田青邨（明治18年-昭和52年）は、現在の岐阜県中津川市の出身です。今回は青邨の生誕120年を記念して、初期から晩年にいたる優品の数々を展示します（会期中展示替あり）。特に今回初公開となる初期作品は必見です。常に新しい挑戦をつづけた青邨の、絵画探求の軌跡をたどります。

HIBINO DNA AND 日比野克彦 応答せよ!!

会期：10月20日（金曜）から12月24日（日曜）まで

岐阜市出身で、国内外で幅広く活躍中のアーティスト・日比野克彦の、幼少時代から最新作までの膨大な作品群を一堂に展示します。さらに、日比野の類い希な発想やパワーを受取りながら、私たち市民も共に岐阜ならではのモノやヒトとの交流を図り、様々な形で“現在進行形のアート”を展開します。

「飛驒の版画」そのルーツをたどる。武田由平展

1月10日(水曜)から2月18日(日曜)

飛驒における版画教育の歴史は古く、大正時代にさかのぼります。武田由平らによって、授業のなかで子どもたちに版画を制作することの面白さを伝えたのがはじまりとされています。昭和のはじめ大分に転任し、版画家となった武田由平の、その後の活躍を紹介します。

第4回 円空大賞展

会期：3月2日(金曜)から3月25日(日曜)

岐阜県ゆかりの江戸時代の修行僧「円空」。その精神を彷彿とさせる芸術家を顕彰することにより、岐阜の文化を振興し広く発信してゆこうと、岐阜県では「円空大賞」が制定されました。この展覧会では、その第4回受賞者の優れた成果を一堂に展示します。